

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

簡単な日本語で記載する

研究課題名	頭頸部がん患者に対する化学放射線療法(CRT 療法: CDDP+RT)による血清カリウム上昇に關与するリスク因子の探索
研究責任者	島津 晴菜
研究実施体制	聖隷浜松病院 薬剤部
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ~ 2023年12月31日
対象者	頭頸部がん患者様のうち入院にて化学放射線治療(CDDP+RT)を受けた方
研究の意義・目的	<p>頭頸部がん治療の主体は外科的手術と放射線による治療ですが、局所進行例および上咽頭がんにおいては治癒・機能温存を考慮して化学放射線療法が行われます。その化学療法に用いられる薬剤の中でシスプラチン(CDDP)という薬は頭頸部がんに対して特に高い効果を示しており、標準治療薬として位置づけられています。CDDPの副作用としては腎毒性が知られており、抗がん剤と同時に大量の輸液を投与することが必須とされています。大量の輸液投与を行うことで尿量が増加し、腎臓の保護に繋がると言われています。しかしながら尿量が増加することで、尿中に排出されるカリウムが増加し、それに伴い必要以上に血液中のカリウムの低下を招く恐れがあります。そのため当院では、CDDP投与後3日間にわたりカリウム製剤の投与を行う事で血液中のカリウムの低下を予防しています。</p> <p>しかし頻度は高くありませんが、CDDPの投与回数を重ねる毎に血液中のカリウムが徐々に上昇していく事例が見受けられます。血液中のカリウムが規定以上に高値になると生命に関わる不整脈や心停止を引き起こす可能性があります。そのため、事前に患者様のリスク因子を把握することは早期に対応することに繋がると考えられます。</p> <p>そこで本研究では、頭頸部がんに対してCDDPを用いた化学放射線治療を行う患者様を対象に、血液中のカリウムの上昇に關与する因子の探索を行います。</p>
研究の方法	<p>当院耳鼻咽喉科に入院し、頭頸部がん患者様の中で化学放射線治療(CDDP+放射線療法)を行なった患者様に対して、高カリウム血症に起因する因子の調査を行います。</p> <p>調査項目 年齢、性別、身長、体重、体表面積、喫煙歴、既往歴、使用薬剤、がん種、Performance Status、CDDP投与量(1回投与量及び累積投与量)、尿量(day1-day4) 臨床検査値(血清アルブミン、BUN、血清クレアチン、eGFR、電解質(ナトリウム、カリウム、クロール、カルシウム、無機リン、マグネシウム))</p>
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになり

	たい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 薬剤部 (氏名)島津晴菜 TEL:053-474-2222(代表) 9:00~17:00 平日